

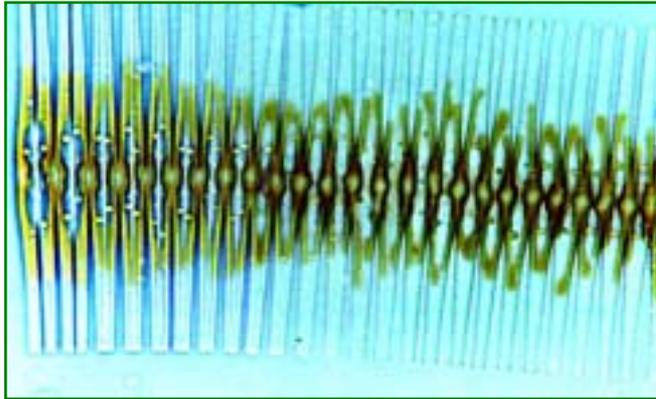
瀬田川プランクトン調査結果速報

～第11報～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成14年6月10日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



Fragilaria crotonensis
(オビケイソウ)
珪藻綱

多数の細胞が中央殻面で互いに接しあ
つて、帯状の群体を形成して浮遊する。

動物プランクトン第1優占種



Bosmina longirostris
(ゾウミジンコ)
甲殻類

体は丸みを帯び、吻端の第1触角が長い
ためゾウミジンコと呼ばれている。

コメント

先週まで観察されていた「淡水赤潮」の原因となるウログレナは、今回の調査では認められな
かった。また、大型のクロステリウムはやや減少傾向にあるが、まだまだ多く観察されている。動物
プランクトンは、ゾウミジンコが非常に多く観察された。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	<i>Bosmina longirostris</i>	3400

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪 虫 類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	100

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成14年6月10日

第11報

(2) 植物プランクトン

(網) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	140		
(珪) <i>Synedra acus</i>	1		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	30		
(珪) <i>Acnanthes minutissima</i>	10		
(珪) <i>Gomphonema</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	40		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Eudorina elegans</i>	32		
(緑) <i>Oocystis solitaria</i>	10		
(緑) <i>Scenedesmus</i> sp.	10		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	38		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	130		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	2		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	201	40.8	7.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	60	12.2	2.8
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	232	47.1	89.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	493	総体積	2.59E+06
種 類 数	15	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各網ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。